

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 2年 3月 16日

職員6名

事業所名 MANA

		チェック項目	評価			工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
			はい	どちら ともい えない	いいえ		
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	4		静と動の活動を分けている、来所時間で活動内容を分けている	利用児童の来所時間で適切且つ効率の良い活動を作っていく
	2	職員の配置数は適切である	5	1			送迎時、会議等で職員が抜ける際の適切な配置が行われていない時があるので、適切な送迎配置や会議等の適切な日程調整を心がける
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	5			設計上、難しいところや、対象児童がいないため、バリアフリー化には取り組めていない、対象児童が利用の際はバリアフリー化を進めていく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1			PDCAのサイクル化まではできていないので来期でサイクルを行う、また業務改善のために業務負担の分担化にも取り組む
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1	2		評価に対する行動を全て実現できていないが、保護者の評価を真摯に受け止め、行動に落としていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	1	4		第三者委員会を設置していないので、委員会の設置や外部評価を検討する
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6				毎月の勉強会の継続と外部の研修への参加も積極的に行う
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6				今後もアセスメントを適切に行い、児童、保護者のニーズをきちんと取り込んでいく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			標準化されたアセスメント以外にも特性に合わせたアセスメントツールを活用している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6				
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6				
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	2			行えていない日もあるので課題はきちんと細かく設定し職員間での共有、支援を行う
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	2			全ての職員とは共有を行えていないので、紙面やライン等を通して振り返り共有していく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6				今後もより具体的に、客観性のある記録をつけていく
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1			

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ せて支援を行っている	4	2			定期的にガイドラインを読み直し、現場の支 援へ落とし込んでいく	
関係機 関や保 護者 との 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議 にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者 が参画している	6					
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交 換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送 迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に 行っている	6			送迎時や電話連絡、 連絡帳の共有などで 情報の共有を行なっ ている		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		3	3			必要な利用者がいれば連携した支援を行 なっていく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こ ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共 有と相互理解に努めている	2	4				利用開始が就学前から時間が経過している と情報共有が行えていない、保護者のニー ズがあれば共有と相互理解に努める
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所か ら障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、 それまでの支援内容等の情報を提供する等して いる	1	4	1			まだ卒業生がいないので共有を行なってい ないが、卒業生が出た際は移行時に支援内 容等の情報の共有を行う
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セン ター等の専門機関と連携し、助言や研修を受け ている	1	2	3			今後はどのような連携、助言、研修がある のか必要性を調べ保護者の要望も踏まえな がら連携をとっていく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がい のない子どもと活動する機会がある	5	1				児童館での他児童とのふれあいはあるが交 流を目的とした事はおこなっていないのでイ ベント参加や施設と協議をもっとみたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加して いる			4	2		事業所、利用者の地域の参加をどのような 形で実現できるかを調べ、利用者の地域参 加は保護者の要望等も踏まえ検討していく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子 どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	6					
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者 に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っ ている	3	3				会を開いてのプログラムはないため次年度 より会を開く
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について 丁寧な説明を行っている	6				今後も保護者様への丁寧な説明に心がける	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適 切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6					
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開 催する等により、保護者同士の連携を支援して いる				6		会を発足していないため保護者様に会の必 要性を問い、保護者様同士の連携が取れ れば会の発足を行う
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体 制を整備するとともに、子どもや保護者に周知 し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応し ている	5	1				苦情、相談等の申し入れの体制をきちんと 整え、保護者様への体制整備の通達をきち んと行う
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予 定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対 して発信している	6					今後もより具体的に迅速かつ定期的に情報 や報告を発信していく
	35	個人情報に十分注意している	5	1				イニシャルトーク、情報の持ち出し禁止など 情報には今後も十分に注意していく
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や 情報伝達のための配慮をしている	5	1				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に 開かれた事業運営を図っている	1	2	3			開かれた行事を行っていないので、保護者 含め職員と行うかを検討する
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症 対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知 している	3	3			新規利用者、年度始めに各マニュアルの説 明や通達を回覧板で回し周知を行う	

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6				今後も児童の安心、安全な訓練を行う
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6				月1回ある勉強会にて研修を取り入れている次年度からは事例検討なども入れながら虐待防止に務める
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	1	3		個別支援計画への記載、保護者様への説明を早急に行う
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	2		保護者様との共有で医師の指示が必要な児童には指示書を活用するようにする
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6				今後も小さなことでも共有していく